ポスト1300年 観光

ボランティア活動を語る

民間パワーで新風

「はじまりの奈良・めぐる感動」を合言葉にした平城遷都1300年祭が終わった。同祭はメーン会場となった平城宮跡での事業のほか、県内各地の歴史や文化に新たな光を当てた「巡る奈良事業」では、県内全域の地域の伝統行催事や社寺の秘宝・秘仏特別開帳などが展開され、奈良を全国、そして世界にアピールした。これらの事業の運営は数多くのボランティアによって支えられ、同祭の成功に大きく貢献した。この実績を踏まえ、ポスト1300年の新たな奈良県のあり方、とりわけ観光事業の今後の展望について、奈良県知事・荒井正吾氏と㈱新社社長でNPO法人奈良元気もんプロジェクト理事長の乾昌弘氏にボランティア活動を軸に語り合っていただいた。

魅力に目覚めた「平城遷都1300年祭」

乾　1年間にわたった平城遷都1300年祭が幕を閉じ「ポスト1300年」へとつなげていくことが課題になっています。まず平城遷都1300年祭を無事に終えた現在の心境についてうかがいたいと思います。

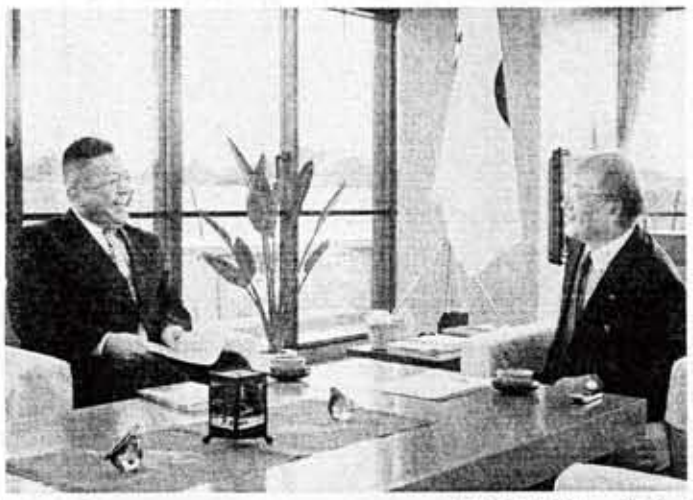
荒井　無事に終わり、ほっとしているところです。平城遷都1300年祭はいろいろな工夫をさせていただき、結果として多くの人に来ていただきました。奈良の本質に気づいていただくとともに、奈良県民に奈良の魅力の本質に目を向けていただくきっかけになったのではないかと思います。人が来るのかどうか、あるいは収支が合うのかどうかということより、地方のイベントのグレードが高まるように苦心してきましたので、その点ではよかったと思います。

平城遷都1300年祭は、事業規模としては小さい方ですが、1300年前の古い国家の姿を現代に伝えるということで、閣議了解していただいたこと、経団連の会長に事業推進委員長を引き受けていただいたことが事業を進めていくうえで大きかった。そして、天皇陛下のご臨席を賜り、お言葉をいただいた記念祝典がハイライトであったと思います。それと、約2年がかりで「考える」というテーマでまとめた平城京レポートも成果としてあげられるのではないかと思います。

ボランティアの力◇成功に大きく貢献

乾　私は、県内二円で奈良を盛り上げるイベントを自ら企画し、実践できる文化制作ボランティアを生み出すことを目的として設立された「奈良2010年塾」の運営に、NPO法人奈良元気もんプロジェクトの理事長として7年間かかわらせていただき、平城遷都1300年祭を盛り上げる一端を担わせていただきました。

塾生たちは、2009年大みそかのカウントダウンから、2010年1年間を通じて春・夏のフェア、年末の奈良マラソン、フィナーレイベントまで様々なところで活躍しました。そして1300年祭を終え、私自身は1300年祭の一番の財産は、こういった人材であると思います。



したし、一番の成果は私も含めて奈良に住む人が奈良の良さを人々に伝えることによって、自らが奈良の良さを改めて知り、奈良をより愛する機会になったということではないだろうかと思います。

そういったボランティアをどのように評価していただいているでしょうか。

荒井　1年間を通じてボランティアの方々にはたいへんお世話になり、平城遷都1300年祭の成功に大きく貢献していただきました。これからも民間のパワーで、奈良県に新しい風を吹き込んでいただけることを期待しています。

ボランティア目線◇サービスに限界

乾　今回のボランティアは2010年塾生だけではなく、平城宮跡探訪ツアーなどのボランティアガイドや、さかのぼれば春の平城遷都祭、なら瞬花会、バサラ祭など、多くの文化制作ボランティアが、その地域に新しい文化を起こすくらい積極的に活動しています。このような事例は全国にも例のないボランティア先進県と言えるのではないでしょうか。このような方々が、1301年以降も県内各地で奈良を盛り上げていってもらえると確信しています。

ただ、一方で私は、よりよいものを作るためにステップアップしようとすればするほど、無償ボランティアの限界のようなものを感じることもありました。

イベントが成功したかどうかの基準のひとつは、来場者がどれだけ満足していただけたかということで、つまり運営者側であるボランティアがどれだけ来場者側の目線で考え、実施することができたかということだと思います。もちろん、そういうことはみんな分かっているのですが、しかし、ではボランティア目線で考えることがゼロかというとそうではないこともあります。ボランティアなのでそれ自身を否定できないところもあるのですが、でもやはりより良いものにしていこうとすればするほど、ボランティア目線で考えることは限りなくゼロにしながらも、ボランティアとしての自己実現ができるようにしていかなければいけないと感じるようになりました。

成長と活性化に挑戦

奈良県知事

荒井　正吾 氏

東京大学法学部を卒業。1968年運輸省入省、OECD日本政府代表部参事官、観光部長、鉄道局審議官、自動車交通局長、海上保安庁長官を経て参議院議員。2007年から現職

おもてなしに満足◇内容レベルアップ

荒井　奈良県の観光事業で最も反省するべき点は、観光資源を十分に活かしてこなかったということです。それと同じように、観光に携わる人たちの課題として、とくに観光業を生業にしている人たちには「財布を狙ってはだめ、心を狙え」ということが言われます。その点で、ボランティア目線というのは大きな意味があると思います。来ていただいた方に心を聞いていただくために、お客さまの満足度を中心にサービスを提供しなければなりません。ではどのようなグレードと内容のサービスを提供するのかという点になってきますと、一人一人のお客さまのニーズに応じた満足度を引き出していくことに心をくだくべきだと思います。

良い観光地にしていくために相手の満足度を高めるということは必須だと思いますが、これからは相手に満足していただくとともに自分自身も満足していくということが大切なのではないでしょうか。

ボランティアは基本的に縁の下の力持ちであり、地域イベントのボランティアはとりわけそうです。ただ今回、観光ガイドなど目の前でお客さまが反応するボランティアがありました。お客さまは奈良のことを深く勉強しておられて、ハイレベルの内容を要求されることも多かった。したがって、観光ガイドももっと自分自身を高めなければということに気づかれ勉強された方が多かったと聞いています。このように、お客さまの満足とともにボランティア自身が高められていくということがある、そのような成長が観光の本質であると私は思います。

奈良県の観光業は資源が豊富にあり、文化的な環境を整備すれば経済面で大きく貢献します。その意味で、観光業の成長と活性化は今後のテーマだと思います。

周遊型観光のあり方追求

㈱明新社代表取締役社長
NPO法人
奈良元気もんプロジェクト
理事長

乾　昌弘 氏

1961年生まれ。奈良市出身。86年同志社大学商学部卒業。86年明新印刷㈱（現：㈱明新社）に入社し、2002年から現職。09年3月、自らを「MASAくん」というキャラクターにして、ならクターショップ絵図屋を開店。奈良青年会議所理事長、日本青年会議所近畿地区協議会会長などを歴任。他にNPO法人観光深耕風になろう理事長、㈱奈良シティエフエムコミュニケーションズ取締役会長、奈良イベント事業協同組合理事長、㈱納税協会連合会青年部会連絡協議会会長などを務める

観光資源を活かし◇滞在型観光立県へ

乾　これらのことも含めて、私は平城遷都1300年祭は大成功だったと思います。これからは奈良県は観光に力を入れ、奈良にある多くの観光資源を活かしていくことであらためて観光立県として観光を推し進めていってもいいのではないかと思います。その場合、滞在型観光を考えていかなければならないと思います。すなわち、以前から言われていることではありますが、奈良に来ていただいたお客さまに奈良に宿泊していただき、県内を巡っていただくような観光のあり方を追求していくべきではないかと思います。

私はNPO法人奈良元気もんプロジェクトで奈良まちおこし結び会（ゆえ）という事業を行っています。これは県内各地で、民間の手によってその地域の文化資源や食を通して地域を活性化しようとしておられる団体に声をかけさせていただき、イベント見本市と称して一堂に集まっていただき、シンポジウムを行ったりしています。また冊子としても発行しており、奈良のディープな部分を知っていただければと思います。

現在進められている自転車利用促進は健康増進や環境にも優しいというだけではなく、中南和の観光振興に大きく寄与すると思います。結び会と自転車で相乗効果があると思います。

「せんとくん」の角◇外部へのアンテナ

荒井　様々な施策が考えられます。一つはマスコットキャラクター「せんとくん」の活用です。「せんとくん」は、誕生したときは地元のサポーターがいなくて、外部の人たちの人気で認められ多用されるようになったという経緯があります。結果としてはありがたく利用させていただくことにしていますが、奈良は外部の人たちがその価値や良さを認識してくれて、それで初めて奈良の良さを奈良の人たちが認識するというところがあります。

奈良まちおこし結び会も、そのようなトータルな視点が必要ではないでしょうか。内で様々な取り組みをすることは大切ですが、外とのコネクションにも心を開き、結びつくことで成長していく、そのような受け取り方をしていくと奈良はもっとよくなっていくと私は思います。「せんとくん」の角はアンテナだと私は考えています。

乾　課題にお応えいただくとともに、今後に向けての問題提起もしていただいたと思います。ボランティア活動については、今のお話を受け止めてさらに活発な活動を展開していきたいと思います。そして行政と民間ボランティアの力で今後の奈良県の観光を活性化させるために頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

NPO法人奈良元気もんプロジェクト

奈良の持つ良さを生かした「できごと」（イベントや祭）を行うことによって、これを支える文化制作ボランティア「奈良元気もん」を育成することをメーンとして、「できごと」を通した地域の活性化を図る活動をおこす特定非営利活動法人。

奈良2010年塾卒塾式で卒塾賞状を渡す乾理事長